カトリック高松教区報

２０１６年１月１日（第１７０号）
発行所　カトリック高松司教区　広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：　yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉

愛は家庭から始まります。まず家庭の中で不幸な人を救いなさい。両者が愛し合い、母親が家庭の中心となりなさい。

平和と潤いの家庭が築けたら、隣人を愛しなさい。自分が、自分の家庭が、愛に満たされなければ隣人を愛せません。

新年おめでとうございます

高松教区司教　諏訪榮治郎

２０１６年　新年おめでとうございます。昨年は小教区版「教区民の日」の年として、皆様の共同体が、司教書簡に応え、新しい教会の姿に向かっておられました。

特に「外国籍の方々とのコミュニティー」づくりに心をくだいておられる姿を拝見し頼もしく思いました。教会は新しい息吹を注がれ歩んでいるのを実感いたしました。

さて「いつくしみの特別聖年」が始まりました。２０１５年12月８日から２０１６年11月20日（王であるキリスト）の１年間です。

「聖年」は「ヨベルの年」と呼ばれます（レビ記25章）。それは「安息の年」（７年目）の７倍の49年目の第７の月を50年目「聖年」と呼ばれるのです。７とは神の慈しみに満ちた恵みを表わす聖なる数字です。この年、人間の起源は神の愛にあることを忘れないため、また全てに命を与えられた神の慈しみを思い起こすため、祭日」でした。「神のいつくしみ」である御子をこの世に与えた聖母マリアの使命は、教会の使命そのものなのです。マリアの生涯は教会の本来の姿の現れです。マリアさまがカトリック教会に世界の人々に寄り添って生きる使命をこの公会議において宣言し確認したのです。「現代人の喜びと悲しみは教会の喜びと悲しみでもある。・・」（第二バチカン公会議　現代世界憲

神の愛に満ちた特別聖年に

「土地の安息　負債の免除　奴隷の解放の年」とされ、人間を本来の姿にもどす聖なる年としました。（レビ記25章をぜひ読んでください。）

現代はまさに人間性の開放をだれでもが待ち望み、主よ、あわれみ給え」と叫び声が世界中に響いています。

12月８日は神のいつくしみであるイエスをもたらした「聖母マリアの無原罪の会で崇敬されるのはそのためなのです。

またこの12月８日は第二バチカン公会議の閉幕50年にもあたる日です。大きな世界大戦を経験した20世紀、教会はキリストゆえに世界の人々に寄り添って生きる使命をこの公会議において宣言し確認したのです。「現代人の喜びと悲しみは教会の喜びと悲しみでもある。・・」（第二バチカン公会議　現代世界憲章の序文をぜひ読んでください。）

イエスが安息の日に会堂で「右手のなえた」男に出会い（ルカ福音書16章）、彼の姿を見て内臓が痛むほどの思いをもって、損なわれた右手を元に戻されます。暗く悲しみに満ちた彼の人生にイエスは「喜びと光・命と希望・愛と開放・平安・尊厳」をもたらしたのです。この人はどんなにうれしかったことでしょう。

教皇フランシスコは現代社会に生きる全ての人に「神の愛と命」が取り戻されることを、イエスのみ名において実行されることを願っておられるのです。「自分を忘れて人のために尽くすとき心は安らぎに満ち、自分のことを思うときこころは苦しむ」とは信徒のＴＦさんの言葉です。

この特別聖年が神の国の現われとなりますように、ともに仕え合うこととといたしましょう。

よき一年でありますように心からお祈り申し上げます。

いつくしみの特別聖年　高松教区としての対応

聖年の扉開門式　2015年12月20日

2015年12月8日無原罪の聖母の祝日に「神のいつくしみの特別聖年」が開年され、12月13日、ローマの聖ペトロ大聖堂に於いて「聖なる扉」が開かれました。高松教区では12月20日に開門式を行い2016年11月20日の王であるキリストの祝日迄までの1年間、聖年としての取組みを予定しています。この他、大阪教会管区としての取り組みも合わせてお知らせいたします。

教区の主な取り組み

1　聖なる扉と免償の恵みをカテドラルに設置する。他の教会での「聖なる扉」免償の恵みに関しては地区ブロックのメイン教会に設置する。

2「病者の日」2月11日に病者の為のミサを各小教区で行う。

3「NWM」ネットワークミーティング・2月27～28日、テーマ「巡る」愛と命を考える。

4　教皇フランシスコが勧める「主のための24時間」3月5日～6日各地区メイン教会（巡礼教会）で行い、共同回心式やゆるしの秘跡を行うことを勧める。

5「少年少女の聖年」4月24日、「教区こども中高生の集い」の中で行う。

6「受刑者のための聖年」11月5日・6日、民間非営利団体マザーハウス代表の五十嵐弘志氏を招き5日、松山・高松。6日徳島・高知で講演会を開催する。

7「閉年式」16年11月20日、桜町カテドラルにおいて教区での「聖なる扉」閉門・閉年ミサを行う。

（関連記事3ページ）

大阪教会管区への参加

1「司祭のための聖年」大阪梅田サクラ・ファミリア教会で6月10日（金）10時～16時30分、黙想会形式　にて実施する。

2「若者のための聖年」10月29日～30日in宝塚「神のいつくしみの聖年と2016WYDクラクフ大会」のテーマのもとに実施する。

教区指定巡礼教会

香川地区　桜町教会
愛媛地区　松山教会
徳島地区　徳島教会
高知地区　中島町教会
以上４教会を巡礼教会に指定しました。

キリスト教一致祈祷週間を迎えて

毎年、1月18日から、25日の間は、キリスト教一致祈祷週間です。今年は、1月24日の日曜日に、エキュメニカルのミサを行い、キリスト教の一致のために、祈りを捧げます。

さて、第2ヴァチカン公会議では、「すべてのカトリック信者に対し、時のしるしを知って、エキュメニズムの事業に賢明に参加するよう勧告する。」と「エキュメニズムに関する教令」のエキュメニズムの項の出だしで言われています。

このキリスト教一致祈祷週間では、毎年、カトリック・プロテスタントの兄弟姉妹が共に祈りを捧げる一致祈祷集会が行われます。

高松教区でも、各県、各地区で行われることと思いますが、多くの方に集会に参加して頂きたいと思います。

祈祷集会に参加しよう

エキュメニズムで大切なのは、祈りによる一致と、お互いが理解し合うこと、そして分かれた兄弟との協力です。私たち一人ひとりが関心を持ち、キリスト教の一致の為のこの運動に皆さんも参加して下さい。

そのためにまずは、各地で開かれる一致祈祷集会に参加して、別れた兄弟姉妹と共に祈り、親交を結んでみてはいかがでしょうか。

エキュメニズム委員会
カトリック松山教会
兵頭　俊介

皆さん「やってみなはれ」
―信徒の時代がやってきた―

浅草教会・
上野教会主任司祭
西川哲彌

誰もが感じていることでしょうが、教会に大きな波が押し寄せて来ています。それは単なる波ではなく、東日本大震災で起きた大津波のような波です。教会が今まで通りやってゆけるかどうか、その存立にもかかわる事態です。

ヨーロッパのように、長い歴史の中で色々なことを経験し、なんとか灯を絶やすことなく困難を乗り越えて来た教会と違い、日本の教会は歴史が短く、自力で大きな困難を乗り越えた経験がありません。

250年の禁教時代、脱亜入欧の明治時代から130年の発展時代がありますが、歴史があるだけで、実感できる年月は、ほとんど戦後の70年だけです。その70年も、自分たちの歴史というより、外国人の宣教師に依存して来た受け売りの寂しい年月ではなかったでしょうか。

少子高齢化社会の現象が、着実に教会にもやって来て、「これからどうなるんだろう」という不安が、一生懸命教会に尽くしている信徒の心を暗くさせています。

教会を引き継いでゆく若い人がいないのは、どの教会にも共通しています。信徒だけではありません。昔、頼りにしていた司祭にもそのまま当てはまります。

今から17年前の教勢調査を見てみると、東京教区の80の教会、分教会に、頼りになる主任司祭が配置されていました。主任司祭だけではなく、主任司祭になる日を目指して、日々緊張の中で過ごしていた助任司祭が、十数人いたのです。

東京教区は、まだまだ司祭がいます。しかし、人口の少ない教区は、ほんとうに困っています。深刻です。あと17年といいません。あと10年たったら、一人の司祭がいくつもの教会を駆け回ってミサをささげてゆくという状態になるでしょう。司祭も大変です。それが影響してか、神学校は空室が目立って来ています。

戦後70年、雨後の竹の子のように教会が増えました。優秀な司祭が外国から送り込まれ、情熱にあふれた若い司祭が神学校を巣立ってゆきました。あとが続きませんでした。このままでは自然消滅もあり得ないことではありません。冒頭で申し上げた津波とはそのことです。

それならどうすればいいか。心ある信徒にはわかっています。キーワードは「やってみなさい」です。やっと来たのです。信徒の時代が。教皇パウロ6世のお気持ちを、関西風に言えば「皆さん、やってみなはれ。イエス様が描かれはった教会を、皆さんが作ったらいいんだす」ってことになるのでしょうか。

大げさかもしれませんが。消滅の危機にさらされて、やっと日本の教会の一ページが開かれてゆくのです。そのような気がしてなりません。

はばたき

初春のお慶びを申し上げますとともに「いつくしみの特別聖年」を喜び迎えたいと思います。

神のいつくしみは旧約・新約聖書を通して神の神秘の最奥から絶えることなく流れ出て、私たちの喜びと平和の源となっています。

現教皇の大勅書「イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔」を何度も読み返して一層その思いを強くしました。

今年の教区はこの冊子を通して神のいつくしみを深く味わい、体験する機会をいただけるようです。

いつくしみの使徒聖ファウスティナの日記「わたしの霊魂における神のいつくしみ」の中でイエスさまは「人類は信頼をもってわたしの慈しみへ向かわない限り、平和を得ないであろう」（日記、300）とおおせられています。

現在、多くの苦難に直面している世界中の人々に教会が神のいつくしみのみ顔をさし示すことが出来るようにと祈ります。

聖ヨハネ・パウロ二世は聖ファウスティナが伝えた「神のいつくしみ」のメッセージについて聖女の列聖式中に「それは現代のための神の贈り物です」（聖女の日記の序文）と述べられました。

この「いつくしみの特別聖年」中に、すべての人々の心に希望と平和が満ち溢れますようにと願ってやみません。

修道院紹介

聖ドミニコ宣教修道女会　坂出マルチン修道院

第二次世界大戦が終り、敗戦の苦しみと無気力状態にあった地域の人々の幸せと救いを願う、坂出市在住のカトリック信徒の鎌田亀太郎氏、末沢藤太氏の発起によって、坂出にカトリック教会を迎えたいと、当時高松唯一のカトリック教会の主任司祭サンタマリア師と、市長鎌田正光氏の賛同を得ました。

病院や老人ホーム併設

お皿洗いの一コマ

そして市長の父君正憲氏によって笠山山麓の畑千坪の寄贈を受けましたが、教会は、その半分を神様と地域の方々に役立つ使徒事業をするようにと、私たちの修道会に譲渡されました。

修道会は、早速、修道院と病院の建設を計画、一九四九年の秋に完成し、十二月八日聖母マリアの祝日に開院することが出来ました。

こうして、教会と修道院と病院が三つ子のように、同時に開設されたのは神様の、いつくしみのしるしであり、道具として遣わされた私たちは、今日に至るまで、互いに協力関係を戴いています。

私たちは病院では医療関係や経理関係に従事し、また一九六八年に創設された特別養護老人ホーム「マルチンの園」に勤務している姉妹や、また教会をはじめ、その他、立場に応じて多様なあり方で使徒的使命に生き、各々の業を通して出会う人々に神様の現存と愛を伝えて行きたいと願っています。

その頂いている原動力は、ドミニコ会の霊性による規則遵守の修道生活です。毎日のごミサ、教会の祈りの共唱ほか共同のいのり、すべての意味における共同生活です。

今年ドミニコ会創立八百周年を祝っていますがドミニコ会と私たち修道家族に与えられた多くの恵みを神様に、また現場で共に歩んで下さる皆様に新たに心から感謝申し上げます。

どうか今後ともご協力、ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

Sr・丹下　今子

ひと

頼りになる教会のリーダー

阿南教会　吉岡美代子さん（67歳）

彼女に「手伝ってほしい」と相談を持ちかけると、「いいよ！」と力強く引き受けてくれる頼りになる人である。

今、阿南教会の副議長として遠くのいろいろな会に出席し、それを皆に伝えたり、教会行事の企画、準備、実施等に労力を惜しまない。今年度から始まった「み言葉の集会祭儀」の司式者としても阿南の信徒会をうまくリードしてくれている。

以下は吉岡さん自身の言葉です。

「自分は見栄っ張りで人一倍頑張ってきた。今回、集会祭儀司式者になって、自分の中に変化を感じる。そして、カトリック信者であることに開眼し、神であるキリストの偉大さを改めて知ったような気もする。司式者仲間の松本さんと様々な本やインターネットからも学び、分かち合いの時を持つことで、お互いの関係が縮まった。今はかけがえのない相棒として、いとおしくも感じるようにもなった。他の人に対しても親密で大切な人たちという気持ちで、家族と同じように感じるようになった。

様々な仕事を引き受けてやっているうちに、神にゆだねることを知った。自分の力が及ばないところは、神様にお任せし、心にゆとりができた。今、教会の納骨堂に眠る母に会いに行くのが楽しみだ。今の自分をほめてくれ、喜んでいると思って、教会の仕事に精が出るのだ。」

神様は一人の人間をご自分の道具としてどのようにでも変えられ、お使いになる。

吉岡さんの変化に神様のみ業の素晴らしさを見せていただいたように思う。

50年前、彼女の祖母はご自分の貸家を「神様に貸すのだから」と提供し、阿南教会のスタートとなった。そしてお母さんが信者に。その３年後に彼女も受洗。結婚して真言宗の家に嫁いだことにより、十数年の間教会へ行かせてもらえなかった。そういった中でも「いつかは行ける」という期待が実り、今のたくましい彼女の姿がある。

「今、自分は自分の命、体ではなく、神様から預かった命だから、どうすれば神様に喜んでいただけるか、日々神様の導きに委ねきっている。」とにこやかに話す。

正に、神様の愛を吸収しっ放しの彼女である。

阿南教会　答島　久子

クリスマスオラトリオで学んだこと

６年生　弓田瑠杏

12月に恒例の桜町教会学校クリスマスオラトリオ（劇）が上演され、多くの親子連れが観劇に訪れました。そこで、一人の上演者に感想を綴っていただきました。

私には今回が、最後のクリスマスオラトリオだったので、今までで一番いいものにするために、自分の役を精いっぱい頑張りました。

クリスマスオラトリオは、大天使ガブリエルが、イエス様のお誕生をマリアに告げるところから始まります。私はガブリエル役をしました。ガブリエルはオラトリオの中でとても重要なので、動きも大変でした。

例えば、マリアへのお告げの時は、手を大きく動かさなければいけないし、最後の場面では両手をずっと上に上げていなければいけなかったからです。

けれど、わたしが失敗してしまうと他の人にもめいわくがかかるので、夜に練習したことも有りました。

中央　天使ガブリエル役が筆者

今回の劇は去年よりも大勢の方にみていただけてとても嬉しかったです。その分、緊張して、セリフがつまってしまいそうになったけど、練習の成果を出して頑張りました。

劇後もたくさんの方々に「よくできていたね」、「頑張ったね」、などの声をたくさんかけてもらえたので、とてもホッとしたし、がんばってやって良かったと思いました。

私はもう日曜学校を卒業しますが、何事も、この劇の練習のように一生懸命頑張りたいです。

神学生便り

「初心」思い出して

ヨセフ・ゴ・ヴァン・タイン

子供はクリスマスのおとずれを、プレゼントをもらうために毎日毎日指折り数えて過ごしながら、待ちます。私も子供のころ、クリスマスが近づいてくると、毎日毎日指折り数えて過ごしながらプレゼントをもらうのを楽しみに待っていました。

その当時の私は、ただプレゼントをもらうために待つという受け身ではなくて、自ら何かを行うという、積極的な姿勢でクリスマスのおとずれを待っていたのを思い出します。。

今、遡って自分の小さいころのことを話したいと思います。毎年クリスマスが近づいてくると、私は主イエスのために小さな馬小屋を作って差し上げてました。

そのために、貯金を使って材料の買い出しをしていたのです。待降節の第３主日に入って教会に、出来上がった馬小屋を運び、ほかの子どもたちと一緒に並んだのです。

主イエス・キリストが来られることを待ち望むために、キリスト者の皆は外見の準備をすること、たとえば、馬小屋を作ったり、イルミネーションを飾ったり、綺麗な服を着たりすることばかりではなく、中身の準備をすること、すなわち、希望を持つことやゆるしを願うことや善いことを行うことなどを大切にしたらいいのではないでしょうか。

因みに、物質的なものを望むだけではなく、精神的なものも望んだらいいのではないでしょうか。

それではどのような心でクリスマスを準備して、どのような心で再び来られる主イエスを待ち望むのが良いでしょうか。

それは外でもなく「初心」で生きて行くことです。キリスト者であれば、洗礼を受ける時のドキドキした「初心」を憶えながら生きて行くことです。

そしてどのようにするのがその「初心」を守ることなのかを思いながら暮すことです。

結婚した夫婦ならば、愛を告白した瞬間をいつもおぼえながら暮らすことです。

職場で仕事をする人々も入社の時の心で仕事をすることです。このように「初心」を守りながら生きて行く時、私たちは恵みに近付きます。

もちろんこのような「初心」は時間が経つにつれ、少しずつしぼんでいくかもしれません。

しかしいろいろな機会にあらためて「初心」を思い出してみてください。「初心」をおぼえていて、その心を守って、再び来られる主イエスを待ちながら生きていったら、キリスト者の私たちから恵みは去りません。

私たちも目覚めている姿でこのように告白しながら生きて行くならば、主は私たちが思いもよらないほどの豊かな祝福を与えてくださるでしょう。

日常の生活の中で、私たちの信仰が眠り込んでしまうとき、私たちが信じたはずの主イエスのことも見失ってしまいます。

そのような私たちのもとに、イエスは年毎のクリスマスの祝いをもって、新たに誕生してくださろうとしているのです。

ご自分が約束された、「世の終わりまであなた方とともにいる」ということを私たちに気付かせようとして、今年も私たちの中に真実、生まれ出ようとしておられるのです。

私たちも希望をもって、共に新たな一年の歩みを始めましょう。

マリッジ・エンカウンター（ME）とは？

結婚生活における夫婦の関わり、つまり今迄の二人の生活、お互いの相手に対する態度、家族と自分との関係、お互いの希望、悲しみ、喜びなどを夫婦で見つめ直し、結婚生活に新しい息吹を注ぐことを目指しています。

結婚生活の神秘と、お互いの深い絆を実感する大きな喜びの体験となっています。

マリッジ・エンカウンターはカトリック教会の夫婦・司祭・修道者を中心に、世界９０ヶ国以上の仲間たちと共に推し進められています。

教皇ヨハネ・パウロ２世は「私はマリッジ・エンカウンターに期待をしています。」と仰いました。またフランシスコ教皇は先ほどの世界家庭大会の中で「家庭が将来の教会を築く」ことを確認されました。

ＭＥ四国コミニティーでは、２ケ月毎の集いを続けてますので、２泊３日ウィークエンド未体験の方々も何時でも、お気軽にお越し下さい。

お問い合わせ先
立浪敏男＆すみ子
087-874-8892
090-2892-3952
須山二朗＆京子
0877-24-2740
090-1172-2740

何時でも、お気軽にお越し下さい。次号から、ＭＥ会員の体験談を投稿したいと考えています。

ＴＳＣ高松教区サポートセンター
東日本大震災大船渡支援
献金入金報告

１０月８日～１２月１５日分
１７万１４４８円（お米券含）
累計：1千６６２万５４７３円
２０１５年１２月１５日現在

資料提供へのお願い

番町教会は2022年、創立100周年を迎えます。そのための資料収集を計画しています。特に、創立当初から戦前の写真や教会報等をお持ちの方の協力をお願い致します。

番町教会広報部　☏ 087-823-0430
FAX 087-823-0431

『典礼奉仕』のために（22）

典礼聖歌についての解説　その３

高松教区典礼委員長　谷口広海

前号までに述べたような背景の中で、日本の司教団は１９６４年にまず、「全国典礼委員会」を設置し、１９６５年に『ミサ典礼に関する司牧指針』を公布、従来のラテン語規範版『ミサ典礼書』にしたがって、典礼文の改定に臨みました。

ローマ教会をはじめ、聖書の周辺世界を発祥の地とする教会では、古代から典礼式文は、原則として歌唱＝朗唱していました。

歌唱＝朗唱という不自然なことばではありますが、要は、簡単な旋律を付けて歌う、というものです。

ローマ教会の聖歌の母とも言えるグレゴリオ聖歌がそうであったのと同様に、新しい日本の『ミサ典礼書』の式文も、基本的にすべてを歌唱＝朗唱できるようにする必要がありました（『典礼音楽に関する指針』16・28－31参照）。

そうするための紆余曲折を経て完成した第一集の「あとがき」には「この『典礼聖歌』は、礼部聖省の『典礼音楽に関する指針』に基づいて編集され」とあり、先にもあげた『典礼音楽に関する指針』、さらには『典礼憲章』が基礎にあって編集されたことを裏付けています。

高田三郎氏は『典礼聖歌を作曲して』（３４０ページ）に書き記しています。

―ことばが先にあること。（中略）ことば（多くは聖書のことば）を主体として、その日本語をできるだけ生かす旋律でなければならない―

祈りの言葉を味わい歌う

ミサ典礼で詩篇を歌うことが大切にされるのは、それが祈りのことばだからです。祈りのことばの意味を聴き取り、それを深く味わいながら歌えるように配慮した音のつけ方の故に、グレゴリオ聖歌は、教会の財産として大切なのです。

音楽としては美しくても、ことばの意味を聞き取る妨げになるようなことは避けるべきと云えるでしょう。

現在の『典礼聖歌』は、教会の祈りの聖歌の母である「グレゴリオ聖歌」の精神と祈り方を模範とし、さらに、日本の伝統音楽の要素も取り入れたものです。

ある司祭のことばを借りて敷衍すれば、グレゴリオ聖歌を日本語と日本の教会音楽に翻訳したものが『典礼聖歌』なのです。

その意味では、現在の『典礼憲章』の祈りのこころとそれを深く品位ある祈りにする歌い方を学ばずに、何となく『典礼聖歌』を歌うことは、『典礼憲章』の第23条の「すでに存在している形態から、新しい形態がいわば有機的に生ずるように、慎重に配慮する必要がある」ことにも反します。

その一方で、歴史に後戻りは決してありません。教会は、常に現代に適応した宣教と典礼を目指して、第２バチカン公会議を開いたのですから。

「めぐる」テーマに人生考える

ネットワークミーティング in 四国

巡礼の地・四国で、人生という名の巡礼の旅について考えてみましょう。

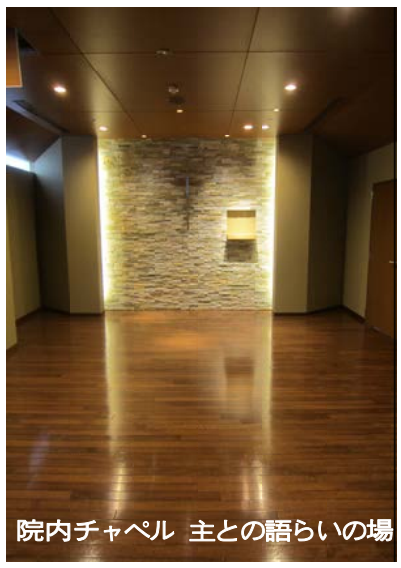
そのとき大切になるキーワードが今回のＮＷＭ in 四国のテーマである「めぐる」です。巡る？廻る？恵る？一言で「めぐる」と言っても様々な意味を捉えることができるのです。

同行二人のお相手イエスと共に「めぐる」様々な意味を考え、感じて、人生とはなにか、考える旅に出ませんか？

【日　　時】2016年2月27日（土）13:30 ～ 28日（日）　15:00
【場　　所】聖カタリナ学園 セミナーハウス　〒799-2436
愛媛県松山市河野別府711
【アクセス】電車：JR予讃線　柳原駅下車、徒歩16分
【参加費】7,000円　※2016年2月19日以降からキャンセル料発生
【対象】18歳以上（高校生不可）
【申込先】E-mail:takamatsu.catholic.youth@gmail.com
※件名に「ネットワークミーティング参加申込」と記入してください。
※申し込み後、確認のメールを送信します。携帯電話から送る人は上記アドレスから受信できるようにしておいてください。
※本文に以下の必要事項を記入してください。
⑴ 氏名（ふりがな）
⑵ 性別
⑶ 年齢（NWM当日の年齢）
⑷ 所属教区・所属教会
⑸ 住所
⑹ 電話番号
⑺ メールアドレス
⑻ 緊急連絡先（本人以外）
⑼ 本人との関係
⑽ 現地までの交通手段
⑾ アレルギーの有無
⑿ ある場合、アレルギーの種類
⒀ 過去のNWM参加回数
⒁ 延泊（する・しない　※別途4,000円）
⒂ その他連絡事項（遅刻・早退など）
※早めの到着、途中参加、早退の方は予定時刻をご記入下さい。
【申込締切】2015年12月31日必着
※申し込みの際に記載された個人情報は「第30回NWMin四国」の運営、管理以外の目的以外では使用致しません。

緩和ケア（ホスピス）病棟開設

―坂出　聖マルチン病院―


院内チャペル　主との語らいの場

ガンで苦しむ人の治療　最後まで患者に寄り添う

約50年前にキュブラー・ロスというアメリカの精神科医が「死の瞬間」という本を出して以来、終末期医療（ターミナル・ケア）に注目が集まるようになりました。

ガンに罹患した患者さんがどのように死を受容してゆくか、そのプロセスについて研究したものを発表したのです。その背景には高齢化社会が進み、ガンで亡くなる人が増え、死生学、加齢学、老年学、腫瘍学、精神腫瘍学、再生医学といった学問が展開されていったからでありました。

人類の歴史が始まって以来、実に長い間「死」は恐れられ、忌むべきものとして避けられ、遠ざけられてきたのです。

しかしながら人類はこの人間にとって大問題である「死」に、科学の光を当てて、その実態、つまり何故細胞の異常増殖が生じ、またそれを止められなくなるのか、何故ホメオスタースは崩れるのかという問題を生物的次元で研究し、その「死」という現実を前にして人間はどのような精神状態になるのか、それをどのように受容するのか等について研究を深めてきております。

研究が進み、これまで分からなかったことが分かるようになりましたが、それと同時にこれまで分からないということすら分からなかったことがどんどん増えて行っているのが実情であります。

いつかは「死」が生物・科学的に解明されるというのではなく、ますます「死」の複雑さが見えてきて、神秘的と言うしかない方向にゆくでしょう。

「私たちは、今は鏡におぼろに映ったものを見ている。だがその時には顔と顔を合わせて見ることになる」（コリント第一・13:12）その時が来ることを希望の拠り所として。

ナイチンゲールは看護に関する教えの中で、患者さんの看護にとって大切なのは治療や栄養の充実だけでなく、太陽の光と「その人らしさ」の尊重を強調しております。

緩和ケア（ホスピス）にとって正にこの二つは大変重要であります。

聖マルチン病院は今年の秋に新しい病棟を建て、新たに緩和ケア病棟を開設しました。ガンで苦しむ患者さんに新しい医療の手を差し伸べ、また亡くなる方にはこの世の最後まで、側に寄り添うことを目的としております。

一人ひとりの命はかけがえのないものであります。新病棟の最上階の７階が緩和ケア病棟であり、この病棟に聖堂があり自由に祈ることが出来、また亡くなられた患者さんの永遠の平安を願って御ミサも捧げられます。

病棟の南側には山があり、おいしい空気と太陽の光が注ぎ込まれます。

緩和ケア病棟への入院だけでなく、在宅緩和ケア医療も積極的に展開してゆく予定になっております。

詳しい情報をお知りになりたい方は、聖マルチン病院の総看護師長のシスター合田までご連絡いただければ幸いです。

新築なった病院内部

癒しの展望　坂出市を一望

聖マルチン病院　井原彰一

関東東北豪雨被災者へタオル3万枚

タオル限定プロジェクト報

関東東北豪雨で、被災された方へタオルを贈るプロジェクトを実施しました。

北は北海道から南は奄美まで、全国２００ヶ所以上から個人及び団体の皆様から実に２万９２８８枚ものタオルが寄せられ、心のこもった皆様の優しさが被災地へ届けられました。神戸で一旦取捨選択の整理を行い、現地のニーズを聞きながらその都度発送することで良かったと思います。

時が経てば保管されている分も被災地へ届けられていくことだと思います。

また神戸で仕分け作業をしてくださった皆様に心から感謝したいと思います。

たかとり救援基地

高知で女性の会に95人

”違いを豊かさに”考える

一つ所に集まり食事をしながらの情報交換

２０１５年10月31日高知市江ノ口教会で第7回女性の会高知大会を開催いたしました。

テーマは”違いが豊かさになる教会・共同体”でした。さまざまな国の方々、四国４県から合わせて95人の方が参加してくださいました。

会が始まる前に、諏訪司教様のギター伴奏で、祈りの集いの歌の練習をしました。聖堂の中は祈りの雰囲気に、満たされました

今日の集いが神さまの思いを実行する私たちに変えられますようにと祈って、会が始まりました。

“聴かせてください”では、フェルナンド神父様・ホルヘ神父様が外国から来られた方々がどんな問題を抱え、どんなことに悩やまされ、苦しんでいるのか、日本人として、同じカトリック信者として、わたしたちは、わたしは、なにができるのか。考えさせられるものでした。

ほかの集まりには笑顔で参加できるのに、教会では、笑顔になれないという話もありました。私たちが今からできることは、笑顔で声をかけ、寄り添い、おもいやりをもって接することではないでしょうか。

フィリピンから来日して20年が経つお母さんが伴奏をして、中学生の息子さんと歌を歌ってくださいました。息子さんの明るい歌声は聖堂の中を和ませてくれるものでした。

午後からは、イル神父様のご提案で短い時間でしたが、グループに分かれて分かち合いをしました。自己紹介をして、分かち合いをはじめました。　最後のほうで未信者の方が、心の内をお話ししてくださって、聴いている私達のほほも涙が伝いました。神さまがそばにいてくださるような不思議なひと時でした。

“祈りの集い”は、歌と祈り静かな雰囲気でみんなの心が一つになりました。

司教様のギター伴奏は初めての方もおられましたが、素晴らしいという声が聞かれました。又、江ノ口教会の人たちは、懐かしい、やっぱり落ち着くねえとの声で盛り上がり、思った通り大絶賛でした。

女性の会の大会を支え協力してくださった方々、参加してくださった方々、ありがとうございました。感謝いたします。

江ノ口教会
女性の会　矢野洋子

Ｔ　Ｓ　Ｃ　便　り　　女性の会 東北ボランティア報告

手が足りない ボランティア大歓迎

私たち女性の会では、毎年各県から交代で東北に行くことにしておりますが、昨年の愛媛に引き続き、今年は香川から4名で9月末の5日間、岩手県カリタスジャパン大船渡ベースに行って参りました。ＪＲでの往復に2日かかり、正味3日間で老人ホーム訪問や、仮設住宅の草刈り作業、仮設住宅でのメンズサロンのお相手、ベースでの陶芸教室へ仮設の人々とともに参加、などをさせていただきました。

カリタスジャパンのスタッフはあちらではどの地区でも、カリタスさん、カリタスさん、と親しまれておられますので、私たちボランティアも1日カリタスさんになって来ました。

震災から4年半たって、どこの団体も引き揚げてしまった今、カリタスジャパンはなおも踏みとどまっている数少ない団体の一つです。

チンドンやさんのパフォーマンス風景

引きあげた団体から、去り際に頼まれて引き継いだ仕事や、新しく生まれてくる仕事でとても忙しく、手が足りない状態です。ボランティア大歓迎なのです。

私たちは、仮設に住んでおられるお年寄りの、悲しみをすべてを受け容れた穏やかなお顔や東北弁の優しい会話に、逆にいやされた感じでした。そのことを私たちが分ちあいで表明しますと、ベースのスタッフはそれでいいんですよ、ともに楽しんでくださるそのことで十分なのですと、そうおっしゃいました。

また大船渡には　南米やフィリピンなどから　お嫁に来られた方が多く、この震災を機に教会に来られるようになったそうで、一緒にミサにあずかった時、日本人信者の中に完全に溶け込んでおられる彼女らを見て、びっくりしました。

彼女たちは、奇跡の一本松を旗印に「パガサ岩手」という会を立ち上げたのです。パガサとはフィリピン語で希望という意味です。

毎月各家庭を回ってロザリオの祈りをしながら、一本松をえがいたＴシャツやパーカーの売上金で困った家族を助けるなど、頑張っておられます。そのＴシャツを、10月31日の女性の会でも売りましたが、ご協力ご希望の方はご連絡ください。お待ちしています。

このようにフィリピン人信者たちが信仰のもとに一つになり、自助努力を続けてこられたのには、良きリーダーの存在もさることながら、日本人信者たちの温かさ、神父さまがたのタガログ語でのミサや悩みを聞いて下さったことなどが大きな力になったのでは、とのベースのスタッフの言葉でした。

今回の工場見学では「かもめの玉子」という当地自慢のお菓子を作っている工場が津波を免れ、震災後いち早く稼働開始し地元の多くの人を雇用できたことを知りました。

そこでこの会社は東京の歌手グループやちんどん屋さんなどを毎年招いて、実演や餅まき、バザーを地元の人たちに楽しんでもらっているそうです。私たちも楽しんできました。

また車いすの牧師さんのリードで一緒に演歌を歌った松原苑のお年寄り達と、もう一度会いたいなあと思います。結論は「行って良かったよ、皆さまもどうぞ！」

坂出教会　曽我部輝子

仮設の人と囲碁対戦

私は岩手県の大船渡で行った二つのボランティアについて記します。

1つ目は、松原苑という介護施設でのお手伝いです。午前中は、利用者の方と話しをしながら、10時の飲み物とプリン、そして昼食の介助をしました。私も介護の現場で働いています。仕事の内容が似ていることから、経験を生かして取り組むことができたと思います。午後からは入浴介助も行いました。

また設置してある機械も職場のとよく似ていました。使い方を教えてもらいつつ介助を行いました。

職員の方が利用者の方に話す言葉はその地方の方言で、年寄りに合わせた話し方で、いいなと思いました。また、職員の方から「よう稼ぐなあ」といわれ、お金を稼ぐことかと一瞬思いましたが、「稼ぐ」は「働く」の意味だとわかりました。皆、方言で喋るので、ひとり外国にいるかのような気持にもなりました。

共に囲碁を楽しむ木下さん

2つ目は、仮設住宅の男性の方との交流についてです。囲碁やUNOなどをするメンズサロンに行きました。私の子供のころは囲碁のアニメが流行っておりましたので、楽しみでした。最近は殆ど囲碁をする機会がなかったので、この機会にと囲碁をすることにしました。

前日からスマホでルールを調べたり、ミニゲームをして勉強しましたが、うまくいかなかったので、サロンでは、まず見学しようと思っていました。しかし、ひとりの男性にお相手がなく、すぐに実戦です。

ハンディをもらい、相手に教えてもらいながらやりました。そして 2回目は、初めに対戦した人を師匠と呼んで、その人に教えてもらいながら、対戦しました。

そのうち私の周りにはほかのおじさまたちも集まって来たりして、皆で楽しい時間を過ごすことができました。

後で聞くと私が師匠と呼んでた方は、その地域でとても有名な達人だったと知りびっくり。今は香川に戻り、師匠もいなくて寂しいですが、囲碁の本を買って、一人でしっかり戦えるよう勉強しております。

またあの方たちとハンディなしで対戦することができたらいいなと思っています。

坂出教会　木下舞希子

仮設の高齢者の不安を実感

前回七月に視察に行き、ぜひボランティア活動をしてみたいと思い、「助ける」「何かしてあげる」ではなく「させていただく」「ともに寄り添う」の気持ちで笑顔を届けようと参加させていただきました。

9月26日夕方、カリタス大船渡ベースのスタッフに温かく迎えられ、早速夕のミーティングから参加させていただき、活動報告、自己紹介、お祈りでなごみました。

27日は大船渡市の年1回の防災訓練の日だと聞き、参加させていただきました。警報が鳴り高台の海の星幼稚園へ向かいました。大勢集まり、子供さんもリュックを背負い、飲み物も入れ、津波の日のようにして参加していました。

今日は5分だったけど、おばあちゃんと一緒だと15分かかるね、と参加された家族の真剣な会話。

瀬戸内海の温暖な土地に守られて無知な私はとても考えさせられました。その日は「津波は忘れかけた頃やってくるとの教訓を忘れないように」というリーダーの言葉で解散しました。

広松原苑にて

27日は朝のミーティングと大船渡教会ミサ、交流会のあとの工場見学、夕のミーティングとお祈り写真撮影。28日は、朝のミーティングと夕のミーティングとお祈り写真撮影を除けば、松原苑訪問、仮設住宅の草刈り。

29日は、それにメンズサロン訪問、陶芸教室、被災地視察などの日程で二組に分かれました。

私と猪熊さんは仮設住宅の草刈りと陶芸教室に参加し、工場見学と被災地視察は全員で参加しました。

陶芸教室は大船渡ベースで、8人の方が近くの仮設住宅から来られました。東京の調布から来られたボランティアグループの馬場先生の指導のもと一輪挿しの花瓶作成をしました。

ひとりの方が一本松のデザインをされるなど、心の奥底にある忘れられないものが見えました。その後、お茶をしながら、グループの方の尺八にあわせて懐かしい歌を口ずさみ、また被災者の方のハーモニカに和みました。

その中で、ある方は、1ヶ月後に復興住宅に引っ越さなければいけないこと、せっかく仮設の方たちと仲良くなれたのに、別れる寂しさや新しい環境への不安など、心の内を話してくださいました。

被災者の方々は、物資面ではほぼ満たされているようですが、精神面でのケアがまだまだ必要で、ボランティア活動を継続していかなければと痛感しました。

また皆さんが、一つひとつの出会いを大切にしながら、笑顔で、前向きに生きておられることが確信できました。

マザーテレサの言葉に「大河の一滴であれ」とあります。私も自分のできることは何かを知り、ボランティアの必要性を伝え、皆で大河をつくれるよう頑張りたいと思いました。今回も私たちを温かく受け入れてくださったベースの皆様に感謝です。そしてまた機会があれば参加したいです。

坂出教会　平川三鈴

復興住宅へ引っ越す寂しさも

今回、女性の会から声をかけていただき、私もボランティアに参加させていただき、貴重な経験ができました。

ベースでのボランティア活動の中で、仮設団地の草刈り作業を平川さんを含めベースの男性スタッフと地元のボランティアの男性の4名で行いました。場所は大豆沢仮設団地といい、風光明媚な碁石海岸の近くの高台にありましたが、周囲にはかなりの草が繁っていて1日ではとても終わりませんでした。

大船渡ベースのスタッフと共に

仮設団地は半分以上が空き家となっていて、残っているのは高齢者の独り暮らしの方がほとんどで、力仕事が難しい状況です。

来年3月以降は現在ある仮設団地が5ヶ所に集約されるそうです。仮設団地から出られてそれぞれの地で安定した生活ができるのがベストなのですが、一方ではまだ仮設団地に残らなければいけない人たちには、来年の再編成により移動を余儀なくされる方も大勢おられます。

そうなればまた 一から新しい環境に慣れていかねばならず、高齢の方にとっては大きなストレスとなり、不安な日々となるのではないでしょうか。

このようなことからベーススタッフが、各コミュニティーでのサロン活動を続けて行く意味を感じました。　そして、こうした活動の継続こそが被災者の方々を支え、与えられた場所で、希望を持って生活をして行けるのだと、改めてボランティアの意義を学びなおしたところです。

坂出教会　猪熊良子

教区スケジュール

1月
- 1日（金）†神の母マリア　祭　　元旦　【世界平和の日】
- 3日（日）†主の公現　祭
- 10日（日）主の洗礼　祝
- 11日（月）成人の日　（年間第１週）
- 12日（火）司祭評議会10：00
- 16日（土）宣教司牧評議会役員会13：00
- 17日（日）年間第２主日
- 18日（月）【キリスト教一致祈祷週間】（～25日）
- 24日（日）年間第３主日「エキュメニカルの日曜日」
- 25日（月）聖パウロの回心　祝【キリスト教一致祈祷週間】（18日～）
- 31日（日）年間第4主日　【日本カトリック児童福祉の日】

2月
- 2日（火）主の奉献　祝
- 5日（金）（初金）日本２６聖人殉教者　祝
- 7日（日）年間第５主日
- 10日（水）灰の水曜日ー四旬節ー（大斎・小斎）
- 11日（木）建国記念の日　【世界病者の日】
- 14日（日）四旬節第1主日　祭壇奉仕者選任式10:00
- 21日（日）四旬節第２主日
- 22日（月）聖ペトロ使徒座　祝
- 23日（火）顧問会10：30
- 27日（土）NWMin北条（～28日）
- 28日（日）四旬節第３主日

編集後記

神のいつくしみの特別聖年のうちに、主の御降誕と新春を迎えることができました。

戦争に参加できることが普通の国と云われる国際社会の中で、教皇フランシスコは「暴力には愛と平和で」対応することが可能だと説かれています。

この聖年を、国際社会の指導者もそうですが、私たちも教会の中で、社会で平和への歩みを願いつつ編集を続けて参ります。（J）

聖ドミニコ宣教修道女会

医療法人社団聖心会　阪本病院

わたしたちは、患者様の立場に立った全人医療を行い、地域の皆様に愛され信頼される病院を目指します

院内保育園完備

整形外科・脳神経外科・泌尿器科
皮膚科・外科・消化器外科
肛門外科・乳腺外科・形成外科
呼吸器外科・呼吸器内科・内科
リウマチ科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
〒769-2602
香川県東かがわ市川東103-1
☎0879-25-1121（代）
http://www.sakamoto-hosp.or.jp/

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう

暁　の　星　学　園

鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園